

令和5年

第12回教育委員会会議録

(開会 令和5年11月17日)

(閉会 令和5年11月17日)

岐阜県可児市教育委員会

令和5年11月17日午前9時00分開会

会場：市役所4階第1会議室

出席委員

堀部好彦君（教育長）

伊藤小百合君（教育委員）

小栗照代君（教育委員）

長井知子君（教育委員）

梶田知靖君（教育委員）

説明のために出席した者

飯田晋司君（事務局長）

佐野政紀君（学校教育課長）

上北泰久君（学校教育課主任指導主事）

真野純次君（学校教育課指導主事）

水野 修君（教育総務課長）

水野伸治君（学校給食センター所長）

三宅愛彦君（教育研究所主任指導主事）

福田真弓君（学校教育課学校支援係長）

出席委員会事務局職員

木村雄大君（教育総務課総務係長）

小池拓哉君（教育総務課総務係）

古川詩織君（教育総務課総務係）

日程及び審議結果

1 開 会

2 教育長報告

3 教育委員報告

4 議 事

①議案第31号 教育に関する予算の意見について（令和5年度可児市一般会計補正予算（第8号））（原案可決）

②議案第32号 可児市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定について（原案可決）

③議案第33号 可児市教育委員会表彰規則に基づく被表彰者の決定について（原案可決）

④議案第34号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について（原案可決）

5 各課所管事項

6 委員からの提案協議事項

7 その他

8 閉 会

開会の宣告

- 教育長（堀部好彦君） おはようございます。

ただいまから第12回の教育委員会会議を開催させていただきます。

定足数につきましては、出席委員が過半数を満たしておりますので、この会議は成立するというところでよろしくお願いいたします。

教育長報告

- 教育長（堀部好彦君） まず教育長報告でございます。

先ほども挨拶がてらお話をさせていただいたんですが、本当に先月、今月と教育委員の皆さんとお会いする会がいっぱいあって、本当にお疲れさまです。様々な会がめじろ押しということで、実りの秋と。短い秋でしたけど、実際は。季節としてはね。そんな感じがしました。例えば笑顔の学校公表会、そして可児学校保健研究総会、市町村教育委員会連合会研究総会、可児市PTA連合会の教育懇談会と、ちょっと思い出しただけでも大切な会がずっと続いておりました。またその辺り、きっと今日の報告の中で出てくるかなというふうに思っておりますが、よろしくお願いをします。

私からは、大きく2つお話をさせていただきたいなあとというふうに思っています。

1つは公表会の件です。皆さんにもDVDを御覧になっていただきながら、市内の小・中学校の先生方と同じ時刻に、代表の2つの学校の広見小学校、広陵中学校の実践、学校経営の様子を見ていただきました。大変私は意義深い公表会だなあとこのことを思っています。

ここで、可児市の今行っているスタイルの公表会の私を感じている値打ちをお伝えしたいなあとというふうに思っています。実際この公表会の運営をやっているのは研究所、三宅主任指導主事をはじめ、よくやってくださっていますが、三宅主任指導主事は、この値打ちをいろいろ捉えておられるのではないかなあとというふうに思いますので、私からこれから3つ申し上げるので、それ以外にもあるかもしれないし、いろんな見方があるかと思っておりますので、今後の参考にといいましてよろしくお願いをします。

この値打ちを考える上でまず思っているのは、普通公表会といいますと、他市町村で行っている公表会いろいろあります。あるんですけども、基本コロナ前までは、可児市もそうでしたけれども、市内の先生方が代表で公表してくださる学校に集まって子供たちの授業を見ていく。教科の授業、特活や道德の授業を見て、主に授業の在り方についての研修の場というのが一番大きな狙いではなかったかなというふうに思っています。ほかにもいろんな公表会のスタイルがあるので、必ずしも授業だけとは限らないんですけども、主に授業について学び合うということが主であったのではないかなあと。

コロナ禍において、なかなか対面でやるのが難しくなってきたので、可児市ではあのようなスタイルで、DVDであらかじめ作っていたのを市内同じ時間で見て学び合うというスタイルにしたわけです。ほかの市町村が今どうしているかは分かりませんが、対面ではないんですけども、コロナ禍で工夫したことが今後持続可能な公表会として値打ちが出てきたというふうに思っています。

1つ目の値打ちは、あの内容を御覧になって感じておられると思っておりますが、授業だけ

じゃないですよ。つまり学校経営について学び合う。校長だけじゃなくて、校長も教頭も教務主任も他の教諭も、「笑顔の“もと”」を育む学校経営について学び合う公表会になっているということが1つ。

2つ目は、通常公表会で公表してくださる学校は、その当日は発信ですよ。自分たちの教育活動について発信をしているんだけど、発信のみというか、それが主になりますよね。でも可児市の公表会は、今回公表して下さった広見小学校も広陵中学校も発信だけではなくて、広見小学校は広陵中学校を見て学ぶ、広陵中学校は広見小学校を見て学ぶということで、市内の全教職員が同じ時間帯に他校から学ぶというシステムになっているということです。これが2つ目の値打ちかなと。

それから3つ目ですが、働き方改革の視点で公表会を見ていったときに、これは公表会を行う学校はいろいろ大変です。私もいろんな学校で公表会を担当させてもらって、いろんなことを考えてきたんですけども、まずお客様をお迎えするというのがどうしてもありますよね。来賓の方々も含めて、駐車場をどうしようとかいろんなことね。それから、授業を45分なり50分間なり一発勝負。言葉はあまりよくないかもしれませんが、一発勝負で見せるために、言葉は悪いですが、いい格好したいですからね。かなり神経を使って当日に臨むというところはあります。

そう考えたときに、このスタイルは今申し上げたようなことが一切ないと思います。接遇の必要はありません。そして、一発勝負という中での緊張感もありません。当然あの中に出てきている授業を公開して下さった先生は、ビデオが回っているので緊張はされたんだろうとは思いますが、いわゆる今申し上げたような緊張感というのは、そこまでではなかったのではないかなということ、いろんな働き方改革の視点から見てもすばらしい取組ではないかなあというふうに思っています。

私が捉えている値打ちはこの3つなんですけれども、ほかにもあるかもしれないので、その辺りを整理して、これが可児市のやり方なんだということで値打ちを教職員に広めていくことも大切かなというふうに思っております。

同時に、対面のよさもあるので、対面で学ぶということもありますよね。これも可児市は大切にしているよということなんですけれども、主に2つです。これは授業について学び合うということについて、対面で2つあると思っています。

1つは教科研究会、市の教科研というふうに言っている、市教研といっている取組があるんですけども、自分は専門が理科だから理科部会という部会に入って、市内の理科の先生方の集まりに入って、そこで勉強しよう。僕は国語だからということで、部会があります。その部会が年何回か行われて、その部会の会議では授業公開も行われると。だから、市内の先生が集まって、自分の学校とは違う学校の先生の授業で学ぶというような取組があります。何について学んでいるかという、今の学習指導要領が求める指導の在り方という視点が一番だと思います。そういった辺りで学ぶ場があります。

それから、もう一つは所員会といって研究所の所員という形で、そういうネーミングで各校1人ずつ研究所の所員になっていただくという言い方でいいですかね。

○ 教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君） そうです。

○ 教育長（堀部好彦君） そうですね。

所員になっていただいて、その所員が研究所の主事の指導の下、ある一つのテーマを

設けて授業の在り方について学び、その学んだことをそれぞれの学校に還元していくと。その所員が、こんなことを勉強したから、こんなふうにやっていきましょうねということをそれぞれの学校の例えば職員会なんかで広めていただくと。

じゃあ、テーマは何か。協働学習です。協力の「協」に、働くの労働の「働」、協働学習。形態としては、3人、4人、5人、6人の机をひっつけてグループ学習です。このグループ学習の在り方を学んでいきたい。これは先進的にやっておられる学校だとか、大学の先生だとかいらっしゃいますので、そういった方々に学びながら、学校、可児市も協働学習を進めています。訪問されると、グループになってやっている場面を見られるかと思いますが、それは所員会で学んでいる学習のスタイルなんだなということも思ってくださいればいいかと思います。という対面のよさも当然考えながらやっていますよということをお承知おきください。

これも併せて、こういった認識を教職員みんなが取っていく必要があるかなあという、みんなが知っておく必要があるかと思っています。加えて協働学習をどう広めていくのか、これは大きな課題だというふうに思っています。私は、中学校は結構広まっているなどという印象はこれまで持っていました。最近、教育長訪問等で訪問させていただくと、小学校も結構いい活動をしているなあという、協働学習のね。この協働学習の在り方については、今日はちょっと時間がないので申し上げられないんだけど、少しずつ小学校にも広がってきているという感触はあります。さらにということでもよろしくお願ひします。

ということで、公表会から思ったことということで大きく1点目お伝えをしました。

もう一点目なんですけど、大変うれしいお話で、昨日私のところにある方から電話がありまして、そのことについて簡単にお披露目をしたいというふうに思います。

電話の主は、岐阜市少年自然の家の職員でナカタニさんという女性の方で、かつて私、一緒に10年ぐらい前に仕事をさせていただいた方なんですけれども、その方が私のことを覚えていてくれて、私が教育長をやっているということも御存じで、電話番号、携帯で分かり合っているの、本当に久々にゆうべ電話がかかってきました。

何かというと、岐阜市少年自然の家を可児市は数校、小学校が活用していて、この秋、コロナとかインフルとかいろいろ心配したんだろうけれども、できたようです。それでナカタニさんがおっしゃるには、可児市の小学校5校、6校来ていただいているんだけど、どの学校の子供たちも大変素直で、そしてフレンドリーで、子供たち同士のコミュニケーションの様子を見ていると大変すがすがしいと。本当にいい子たちですねということもまず教えてくださった。本当にうれしかったです。全てという、可児市から来ている学校の全て、そういった印象を持ったので、これはぜひお知らせしたいということでお知らせをしてくださりました。

もう一つうれしかったのは、引率の先生方、これは事前の打合せも含めて何度か先生が向こうに足を運ばれるんだけど、引率の先生方も、どの学校の先生も熱心で温かくて、子供たちのためにということで一生懸命やってくださっていることもお伝えしたかったですというふうにお聞きして、非常に昨日うれしかったです。ぜひ皆さんにも、市内の先生方の頑張りを共有したいなあということでお話をさせていただきました。

私からの報告は以上です。

教育委員報告

- **教育長（堀部好彦君）** では、長井委員お願いします。
- **教育委員（長井知子君）** おはようございます。よろしくお願いします。
今月は行事がたくさんあったんですが、その中で3つお話しさせていただきたいと思っています。
まずは、10月の終わりぐらいに広見小学校の運動会を見せていただきました。応援団員の宣誓を見せていただいたんですが、娘が小学生だった5年ぐらい前は、娘も応援団員やっていたんですけど、男女の比率が大体同じぐらいだったんですけど、今回はほぼほぼ応援団長が女の子で、割合も8・2か、9・1ぐらいだったので、時代は変わって、時代が反映されているなあという……。
- **教育長（堀部好彦君）** ちょっと止まっていい。
応援団の子の9割が女の子。
- **教育委員（長井知子君）** 赤団、黄団、青団とかありますけど、そこで大体娘の時代では応援団長は男の子が多くて、副団長は女の子が多かったんですけど、応援団長がほぼほぼ女の子で8・2ぐらいな勢いだったので、何か時代がここまで反映されているんだなあと思えました。
- **教育長（堀部好彦君）** 失礼しました。止めてしまって。
- **教育委員（長井知子君）** 2番目は、11月の初旬にありました教育委員の大会に、a1aで行われたものに参加させていただきました。私は不登校の分科会に参加させていただきましたと、とても勉強になりました。ありがとうございました。
それで公表は、発表されたのは各務原市の教育委員会なんですけれども、その中で各務原市は不登校の子が行ける場所が5つか6つぐらいありました。教育研究所の先生方は勉強されていて御存じだと思うんですけども、参考までにお話をさせていただくと、やっぱり各務原市は横に大きいので、何か所かに子供たちが行ける場所があるといいなあというのと、あとはやっぱり税収がしっかりしているのでやれることなんですとおっしゃっていました。その5つの、どういうふうかという、段階別に行ける場所があって、外に出られない、学校に行けない子たちのファーストステップの場所だとか、勉強がしたい子の場所だとか、そういうのが分かれていて、すごくいいなあと思えました。参考までにお話をさせていただきました。
あとその中で思ったのは、やっぱり先生方もどこの学校の方も自分たちはよかれと思って子供にやっているけれども、果たしてそれが子供にとって負担がかかるんじゃないかとか、嫌な思いをさせているんじゃないかとか、やっぱりそういうことも悩みつつ、その場で相談されていたりだとかして、やはり大人もなかなか奥の深いところまでを読み取ることは誰もが難しく、同じ悩みを抱えているんだなあと思えました。
あと3番目は、先日、市P連の懇話会に参加させていただきました。私は子供が大きいので、現役の方とお話しさせていただくのはいろんな情報が知れるので、勉強させていただきよかったなあと思います。その中ですごく思ったのが、最後に教育委員だとか、真野先生だとかが感想を言うんですけど、その中で真野先生がおっしゃった言葉で、僕はカッコいい大人になりたいんだとおっしゃって、そのときに、ああ私も若いときはこうなりたいな、こんな大人になりたいなあと思いましたが、50歳も過ぎて最近はそんな

ことも考えることもなくなったなあ、大人が夢を語るのはいいなあ。50歳を過ぎても、やっぱりこういう大人になりたいとか、そういうふうに考えるってすてきなことだし、自分にとってもすごくいいなあと思ったので、とても刺激になりました。ありがとうございました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** かっこいい大人ということで、いいですね。

不登校のことで各務原市の実践を紹介していただきましたけれども、ありがとうございました。可児市も不登校の子供たちへの対応、新たなものをいろいろ考えたいというふうに思っているの、私たちよりも規模の大きい市がやっておられることを学ぶということもできるかなということを思いますので、そういった各務原の情報をお聞きしましたので、また事務局としても学んでいきたいなあというふうに思っております。ありがとうございます。

○ **教育委員（伊藤小百合君）** おはようございます。よろしく願いいたします。

私も小学校、春里小学校、帷子小学校、南帷子小学校の運動会を見せていただきました。その中でちょっと気になったというか、印象に残ったことがありまして、春里小学校は赤・白に分かれて点数も競い合う形で行っていたんですけど、2つの団しかないので、片方が優勝であれば片方が準優勝というか、勝ち負けみたい形になるんですけど、その発表があったときに、準優勝だったチームの多分1年生じゃないかと思われるんですけど、その小さな男の子が、得点発表があったと同時にすごく大泣きをして体操服で涙を拭っている姿がすごく印象的で、きっと日頃から一生懸命自分で取り組んで、その結果が涙につながったのかなというのを感じまして、すごくとても印象に残った次第です。

あと、春里小学校は創立150周年記念ということで、バルーンリリースといって風船を飛ばしたんですけど、その風船のところにタグをつけて、春里小学校の各子供たち、先生もだったんですけど、自分の「笑顔の“もと”」になるものを記入して風船につけて、風船を飛ばしたんですけど、まだちょっと結果は聞いていないんですが、それを飛ばして、どこかでそれを拾っていただいた方はぜひ春里小学校に御連絡くださいという項目も載っていて、ちょっと気になっているところで、まだ聞いてはいないんですけども、それもぜひ先生にまた聞いてみたいなと思っています。

あと、公表会のほうは広陵中学校のほうを見せていただきまして、担当校というのがありますし、以前子供が卒業したというのもありまして、校長先生がたくましきというのを「笑顔の“もと”」にしたいと。1小1中でメンバーが替わらず、なれ合いって言い方がちょっとおかしいんですけど、そういうところがあって、自分がやるということになかなか少なかったりとか、先日その公表会でも話がありましたけど、最近暑くて、体育祭のときに上のシャツを下のハーフパンツから出してやったら少しは涼しくなるんじゃないかとかという、そういう自分たちの意見をまとめて上に上げて、それを実行したというの、少しずつそういう自ら行っている一歩で、すごくいいなというのを感じています。

公表会で出てきた話の中に、学校に出てこられない生徒に対して、数人で1日数分から接したりとか、話ししたりする時間を持ち続けてきた。その期間がちょっと分からなかったんですけども、それによって学校にいる時間が増えた子がいるというお話があ

りまして、それというのはどの子にも、限ったことじゃないかもしれませんが、仲間との関係を少しずつ持つことで、その子の心の変化が出てきたんじゃないかなというのを思いまして、これはずうっと続けていただくことで効果が期待できればいいなあというふうに感じています。

あと、a1aで行われた研究総会なんですけれども、私は教職員の指導力向上という分科会に参加させていただきました。白川町の教育委員会が発表したんですけれども、なかなか子供たちに地元の歴史を説明するにも、いろいろ外部から入ってきた先生が忙しくて、その土地のことを知らないから子供たちに説明ができないとか、あと先生がお互いに忙しくて聞きたいこともなかなか聞き合えない。学校もそんなに多くはないので、なかなか思うように自分たちのもやもやだったりとか、ちょっと困ったなという困った感をうまく話せなかったりとかという問題を抱えていたりとかする、その解決として、時間外にはなるんですけれども、希望で募集をすることによって、地元のいろいろな観光地巡りをしてみたりとか、自分が子供たちみたいな気分だというわけじゃないんですけれども、実際に自分たちが見て歩いたりとかして学ぶということを何回か重ねてきて、最初は人数も少なかつたらしいんですけれども、だんだん増えてきて、一つの学校だけではなくて、いろいろな学校の集まりの先生方とだんだん交流ができるようになってきたりとかして、いろいろな話もできるという、雑談めいたことも言えるようになって、少し上向きになってきたという報告がありました。

あと、同じ分科会のグループの中で話し合った中の話だったんですけれども、高山市の教育委員の方が、先生方の研修に対しての話だったんですけれども、県だったりとか市だったりから決められた研修を受けるのは当然のことなんですけれども、そういう研修だけではなくて、先生方が自由に参加できるような研修の場を、やっぱり教育委員会だったりとか周りが増やしていかなければいけないという話を聞いて、可児市の教育研究所のほうはきちんと夏休みとかにそういう場を設けていて、きちんとやっているんだなというのを感じました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

春里小学校の運動会と150周年の取組なんだけれど、私もあの日ちょうど風船を飛ばすところで間に合って行ったんですけれど、とても子供たち喜んで、感動でしたね、あの様子はね。私がこの間の公表会でも挨拶で申し上げたんですけれども、「笑顔の“もと”」を自覚していくことが大切じゃないのということを申し上げただけれど、ああやって風船の下にカードがあって、僕の「笑顔の“もと”」はこうこうこうなんだよということを書いて飛ばしているんやね。なので、すばらしい取組だなあ、自覚につながるなあということを思いました。

それから、リターンというか反応なんですけど、学校便りに書いてあったように思うんですけど、反応が結構あったようですよ。3時間、4時間後ぐらいに電話がかかってきたそうです。山梨、そうやって書いてありました。それから、あと千葉県とか、いろんなところから反応があったそうです。手紙も届いたようで、その手紙も便りには書いてあったように思いますので、先生たちも子供たちも大変喜んでいてのではないかなあというふうに思います。

あと1つ、研修のことで研究所のことを言ってくださいますとありがとうございます

た。あと、可児に来られた先生たちが可児市のよさを実感していく、そんな実際に見て回るような研修って、できるといいかなあなんていうふうに思うんだけど、かつてはそういったものをやっていたんじゃないかなあということも思うんですが、今はなかなかそういう時間がなくてということもある。それに代わるものとしても、やっぱり「可児のじまんとほこり」の冊子で先生たちが可児市のよさを実感していただくという。それこそ興味があれば、自分でそこのところに行って見てみるということもできるんじゃないかなあなんていうことも思いました。ありがとうございました。

○ **教育委員（梶田知靖君）** おはようございます。

私も総合会館の笑顔の学校公表会のほうへ出席をさせていただきまして、三宅先生をはじめ教育研究所の皆さん、ありがとうございました。

私も伊藤委員と一緒に広陵中学校さんの発表を見せていただいたんですけども、その中で令和4年度のアンケートの結果という発表がありまして、その中で「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」というのが100%、それから「学校に行くのが楽しい」であったりとか、「自分のいいところがある」というのが80%を超えているアンケートの結果を見せていただいて、本当に先生方の日頃の指導のたまものだなと思いました。

それから、あと広陵中学校さんの発表の後に、竹内先生のアレクションで可児市には外国籍の子供たちがたくさんいるよというお話で、今は可児市の中で800人以上のお子さんたちが在籍しているというところで、今は土田とか今渡だけではなくて、本当に小・中学校16校いろんなところに外国籍の子供たちがいるということも認識して、本当に可児市の教育委員会のほうでも外国籍の子供たちについて考えていけないのかなとすごく感じました。

それから、a1aのほうで、私も教育委員会の連合研修総会のほうへ出席をさせていただきました。本当にこれも教育総務課の皆さんには前日から準備していただきまして、本当にありがとうございます。お弁当も人数分確保していただいて大変だったと思います。ありがとうございました。

こちらでは、分科会のほうで教育長とも一緒だったんですけども、海津市さんの多様性のある学校、子供たちのというところで発表を聞かせていただきました。本当にこちらの海津市の学校、去年、連合研修会の会場でもあったんですけど、教育長さんもとても熱く語っていらっしゃって、本当にいろんな、冒頭にも教育長のお話があったとおり、可児市でも協働の勉強を進めているというところで、そういった発表もを見せていただきまして本当に勉強になりました。ありがとうございます。

それから、この分科会の発表の後に連合会の副会長さんから少しお話があって、ちょっと私が印象に残っていたのが、その方が、先生と子供たちでドラマをつくっていただくというのがとても印象に残っていて、それを各学校さんに広めていってくださいということをおっしゃっていました。子供たちと先生方の最後感動できるドラマをどんどんつくっていくようにというお話を聞いたときに、ああ本当にそうだなとすごく感じました。

それから、私も市P連の教育懇談会のほうへ出席をさせていただきまして、昨年も出席させていただいたんですけど、やはり役員を選出の仕方だったりとか、そういったと

ころがテーマに少し上ってしまっていて、ただ、個人的に私もPTA会長を一度やらせてはいただいたんですけど、本当に子供と触れ合う時間が増えるというところもあるので、最初はなかなか嫌な部分もあるかもしれませんが、本当に楽しくPTA会をやっていただければなとすごく感じました。隣に座ってみえた土田小学校さんのPTA会長さんが、隣に座っていらっしゃったんですけども、その方が来年も僕やりますと言ってみえたので、ああ楽しいんだなあ、と、すごくその笑顔がとても印象的でした。

私は以上になります。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

a1aの会の際に、私も海津市の服部教育長のお話をお伺いして大変刺激を受けたんですけども、教育長が語っておられた協働学習はまさに可児市もやろうとしている。可児市はここ数年取組を進めているということなんですけれども、そういう認識でおっていただけるとありがたいなあという、ああいうものを求めているということですね。

それからPTAの親さん、役員さんとお話しして感じたことなんですけれども、あの会、今感想言ってくださって、私も今の話うれしくお伺いしたんですけど、来年もやりたいと言ってくださっている。ああいったPTAの役員をやっておられる方に、私は共通していることが3つあるなあというふうに思っています。これまで校長として関わってこられた役員さんとか、教諭の頃に関わった役員さん、たくさんいらっしゃるんですけども、共通している役員さんのことで3つ思っています。1つは役員を楽しんでおられる。長井さんもきっとそうだった。皆さん、役員さんをやっておられたのかな、楽しんでおられたんじゃないかなあと。

それから2つ目は、自分のお子さん、我が子がどんな人間になってほしいのか、我が子がどんな人間に育ってほしいのかという願いを持っておられるというふうに私は感じています。

それから3つ目は、感謝の気持ちを持っておられる。おかげさまでという言葉が出せる。偉そうな言い方ですけど。この3つが、私は役員さんに共通しているなあというふうに思っていて、それをそうじゃない役員さんをやっておられないPTAの会員の保護者の方々にもそういったものが広まるといいなあ、これも失礼ながらやけど、そんなふうにも思っています。ありがとうございます。

○ **教育委員（小栗照代君）** おはようございます。よろしくお願ひします。

まず私ごとですが、東明小学校の読み聞かせのボランティアをやっているというお話を何度かさせていただいたんですけど、その中の一人のメンバーがうれしそうにお話ししてくださったので、ちょっと今日お伝えしようかなと思うんですけども、私たちボランティアが図書館で待ってしまっていて、各クラスの図書委員のお子さんが迎えに来てくれるんですね。迎えに来て、その子たちが誘導してクラスまで連れていってくれるんですけども、そのときに3年生の子が後ろをちらちら見ながら、距離感を確認しながら、ゆっくり歩いているとゆっくり歩いてということで、すごく気を遣ってくれてすばらしかったというようなお話をしてくださりました。御家庭でそういった教育を受けていらっしゃるのか、学校で先生方が一生懸命お教えされているのか分からないですけども、そういった気配りが3年生でできるというのはすばらしいなあというふうに思いました。

10月14日ですが、東明小学校と桜ヶ丘小学校の運動会に行っていました。まず、

最初に東明小学校開会式から参加をさせていただきました、今までコロナ禍で来賓の方の出席ということはなかったんですけれども、今回は、対応はできませんけれどもということで、来賓ということで御招待をいただきました。市議さんはじめ地域の自治会の役員さんなど大勢の方が来ていらっしゃるって、実際にテントが1個用意してあって、椅子があって、ペットボトルのお茶をお出しくださったんですが、それが本当に何も逆に御対応してくださらなかったところが、ああ、こういうやり方でやっていただければ、地域の方も御来賓として来ていただけますし、私としても久しぶりに地域の役の方々とお顔を見てお話しする機会もできましたので、やはり来賓とって仰々しく接待ということではなくてお声がけしていただけるというのも大変いいかなというふうに思いました。

東明小学校の児童の数が年々減っていて、そして競技であったりとか応援というの、やっぱり人数が少ない分、ちょっと寂しくなってきたかなと思うんですが、子供たちのパワーは変わらずで、とても元気で明るくて、すばらしい姿を拝見させていただくことができました。

後半戦、途中から桜ヶ丘小学校のほうに移らせていただいて、桜オリンピックという名前の運動会なんですけど、こちらのほうも拝見させていただきました。こちらは御来賓ということでお声をかけていらっしゃるなくて、事前に校長先生からよかったらどうぞというお声をいただいていたので、遠慮なくお伺いしますということでお伺いさせていただいて、校長先生のお隣に座って、ずうっとお話をしてくださっていたんですけれども、そこの先生は新人でこうだよとか、すごく頑張っているよとか、こちらは講師なんですけど、こんなところがすごいよというお話で、先生方のいいところをたくさん知っていらっしゃるって教えてくださって、校長先生、そういった目で先生方を見てくださっているんだなというのが分かりました。

教頭先生のほうは、ソーランをぜひ見てほしいということだったので、桜ヶ丘小学校のほうを後でお伺いして、一番最後だったんですけれども、本当に迫力があってすばらしい、ぜひ見に来てくださいと言われる以上に本当にすばらしいソーランを拝見させていただくことができました。

続いて11月10日、私も県の市町村教育委員会連合会の研究大会のほうに参加させていただきました。分科会としましては、御嵩町の実践発表のふるさと教育の推進ということで、こちらのグループに参加させていただきました。たしか海津市の教育委員さんだったと思うんですけれども、教育についてインターネットでいろいろと調べると、必ずといっていいほど可児市が出てくると。とても可児市の取組がすばらしくて、学びになるということをおっしゃっていらっしゃいました。先ほど教育長もおっしゃっていた可児市のやり方というような公表会のお話をしてくださいましたし、伊藤委員もそのような発表を先ほどされたんですけれども、そういった取組を各県の市町村も参考ということで可児市の取組を見てくださっているんだなということで、とてもありがたいなというふうに思いましたし、可児市の取組は県でも先を行っているんだなというので、ちょっと誇りに思いながらも、ますます頑張っってやっていかなきゃいけないなというふうに思いました。

ふるさと教育ということについてなんですけど、皆さんからいただいた御意見ですと、

やはりだんだん人口が減ってきたり、児童の子供の数が大変減ってきているのが問題だというのを各市町の方がおっしゃっていました。そして、ふるさとのことを十分知っていただいて、ずうっと地元に残ってくればいいんだけど、でも一旦外に出て、また戻ってきてくれるような教育ができるといいなというようなお話を皆さんとさせていただきました。

続いて、11月14日の市P連との教育懇談会で、こちらのほうも参加させていただいたんですけれども、私どもが教育委員の担当校別に会長さん方のグループを組んでいただきたいというお話をさせていただいていたら、今回そのような形で取り組んでいただけだったので、大変ありがたかったなあというふうに思います。やはりなかなか直接単Pの会長さん方とお話する機会がないので、今回のこういった取組をぜひそのまま続けていただけたら大変ありがたいなあというふうに思いました。各単Pでの活動のお悩みなども聞かせていただくことができまして、これから教育委員としていろいろと進めていくに当たって、お声を聞かせていただけて本当によかったなあというふうに思っています。

その中で、特別会計の使い方の基準みたいなものが分からないというふうにおっしゃっていた学校があつて、学校によってもそれぞれちょっと使い方が違うような形でございますので、もし基準みたいなものがあれば、各PTAの単Pのところにそういったことをお伝えいただけたらなあということをお思います。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** 今の特別会計の使い方については難しいところで、本来市が教育の機会均等の観点から準備しなければならないものを、特別会計で例えば準備しているとしたりいかなものかなんていうこともあるだろうなというふうに思って、これは一つ課題でしょうね。

○ **教育委員（小栗照代君）** そうですね。そのお話もさせていただいて、それは本来PTAから出すものなのか、学校とか市から出すものなのかという基準は考えていただいて、先生方から要望があつても、その辺りはお話をさせていただくといいと思えますけれどもということは私からお伝えはさせていただいたんですが、はっきりとした基準が分からないので、その辺りがもし分かればと思いました。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

また運動会についてもそれぞれ皆さん行っていただいて、様子を見ていただいてありがとうございます。学校も、コロナ禍で当たり前に行っていたいろんな活動ができなくなった。運動会もそのうちの一つなんですけれども、運動会の値打ちをそれぞれの学校でいろいろ考えてくださっているというふうに思っています。私としては、いろんな値打ちがある中で一つ思うのは、地域の方々や保護者の方々に子供たちの頑張り、いいところを見てもらう、教育の成果を実感していただく、そういった大きな意味があるのではないかなというふうに思います。ですので、保護者への公開だけではなくて、来賓の方々に対しても声をかけていただいて、子供たちの様子を見ていただくといいなあということは、私としてはいつも思っています。コミュニティ・スクールが進んでいくことも考えると、地域の方々に教育の成果を実感していただくよい機会であるなあというふうに思っています。ありがとうございました。

また、今いろんな感想も含めて御指摘していただいたことを、事務局は参考にしてい

ただけるとありがたいです。

議事

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、議事に入ります。
- **事務局長（飯田晋司君）** 議案書を御覧ください。
表紙の裏面の目次のとおり、本日議案が4件です。
議案第31号 教育に関する予算の意見について（令和5年度可児市一般会計補正予算（第8号））、議案第32号 可児市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定について、議案第33号 可児市教育委員会表彰規則に基づく被表彰者の決定について、議案第34号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、以上4件についてよろしくお願ひいたします。
- **教育長（堀部好彦君）** 本日の議事の議案第31号 教育に関する予算の意見について（令和5年度可児市一般会計補正予算（第8号））、議案第33号 可児市教育委員会表彰規則に基づく被表彰者の決定について、議案第34号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、及び児童生徒校内事故、問題行動、交通事故等の記録については、意思形成に関わる案件、個人情報やプライバシーに関する情報のため、教育委員会会議規則第14条の規定により非公開とすることにしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、この4件については非公開といたします。

それでは、議案第32号 可児市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定についてを議題といたします。

- **学校教育課長（佐野政紀君）** 議案書の3ページを御覧ください。
議案第32号 可児市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定について。
可児市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。令和5年11月17日提出、可児市教育長 堀部好彦。
記1. 改正理由、可児御嵩インターチェンジ工業団地の町名地番変更により、町名が変更となるため改正する。
2. 改正内容、【第2条表中】広見小学校及び中部中学校の通学区域に「あけち」を追加する。
3. 施行日、令和5年12月1日（町名地番変更の告示日と同日）。
4. 改正文、次ページのとおり。
4ページを御覧ください。
可児市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則。
可児市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則（昭和41年可児町教育委員会規則第15号）の一部を次のように改正する。
右の箱の改正後に下線をつけてあるところが2か所、4ページと5ページにあります。平仮名で「あけち」という地名が入っております。ここが追記されています。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございました。

ただいまの事務局の説明について御意見、御質問はありますか。
よろしいでしょうか。

〔「なし」の声あり〕

特にないようですので、この件については承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、この件については承認をいたします。

あけちの辺り、どの辺りかは分かりますかね。工業団地が造成されているあの辺りなんですけれども、民家がどのくらいあるのかなあという。

- 学校教育課長（佐野政紀君） 数軒はたしか区域内に入っていたと思います。
- 教育長（堀部好彦君） そのくらいですよ。線路沿いのほうになるんですかね。もっとこっちか。
- 学校教育課長（佐野政紀君） 割と西側のほうだったかなあと思うんですけど。
- 教育長（堀部好彦君） 西のほうの。あの工業団地の造成に関わって、周辺の道路だとかというのも整備されるようで、何か月も通行止めになるところがありますね。明智駅の辺り。地域の回覧板で回ってきましたけれど、かなり大がかりにやっているようです。

各課所管事項

- 教育長（堀部好彦君） それでは、続いて各課所管事項です。
- 事務局長（飯田晋司君） 私からは幾つか、何点か少しずつお伝えしたいと思いません。

先ほど来、委員の皆さんもおっしゃってみえる市町村教育委員会連合会の研究総会、a 1 a で10日に開催されたということで、当日はあいにく雨、今日も金曜日雨ということで、金曜日は雨なのかなみたいな感じになっていますけれども、県内の教育委員や教育長の皆さんが集まられて、関係方面の御理解、御協力によって何とか無事開催することができました。本当にありがとうございました。

委員の皆さんも改めてそれぞれ得られるところがあったということで、本当に各市町の取組、様々だなあと感じる部分があったんじゃないかなあ。可児市のいいところ、また、まだまだ見習わなければいけないところがいっぱいあるかと思います。そういった部分も含めて率直な御意見、御提言をいただくとありがたいなと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

それから今週ですけれども、11月14日、県内の教育委員会事務局長会議というのがあります。出席をしてきました。県内21市の事務局長が集まって、各市が抱える課題とかについて話し合ったりする場なんですけれども、今回は各市から出された議題5つについて協議をしてまいりました。

主なものとしては、部活動の地域移行の問題、それからG I G Aスクール構想のタブレット更新、それから不登校対策などということで、やはり各市の対応であったり、市の置かれている状況によってすごい差があったり、やっぱり大きい市は比較的進んでいるところが多いんですけれども、かといってそうじゃない部分もあったり、部活動の地域移行なんかはコンパクトな市が結構移行がしやすかったり、羽島市なんかが進んでい

たりするみたいなんですけれども、市域が広くて中学校も散在しているところなんかは物すごくどうしようと悩んでいたりと、それぞれに課題が、問題点が違うので、必ずしも参考になることばかりではないんですけれども、可児市としても参考にしたいなあという部分も幾つか聞けたりして、これから生かしていきたいなあと思っております。

それから最後に12月議会ですけれども、11月29日から開会されるということで、一般質問に関しては来週の月曜日が受付の締切りということで、まだ質問のほう、どんなものが出てくるかはっきりしていませんけれども、12月5日、6日に一般質問が行われるということですので、また12月のこの場で報告させていただけるかなあと思っております。以上でございます。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ **教育総務課長（水野 修君）** 私のほうからも、10日に行われました教育連合会の研究総会につきまして御礼申し上げたいと思います。本当に無事開催できまして、ありがとうございます。

それでは、私のほうからはまず教育振興基本計画の策定状況でございます。一応来週の24日に策定委員会を開催いたしまして、その後、12月13日に行われます議会の教育福祉委員会で報告する予定でございます。その後、来年1月に入りましてパブリックコメントの手続に入るという形になっていくと思いますので、御承知おきいただきたいと思います。内容につきましては、またもう少し固まったときにお話をさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

最後に、本日午後1時から議会の教育福祉委員会との懇談会、5階の第1委員会室で行われますので、よろしく願いいたします。若干お時間が空いてしまいますが、申し訳ありませんがお願いをいたします。現在教育に関して感じておられること、議員に対して何かこうしてほしいなという要望事項など、特にテーマはないそうですので、御自由にお話しただけならなというふうに思います。

なお、先ほどのスマイリングの話なんですけど、議員にまだ話をしておられない関係上、午後からの福祉委員会にはちょっとまだないしょにしておいていただきたいと思いますので、よろしく願いをいたします。

私からは以上でございます。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ **学校教育課長（佐野政紀君）** お願いします。

10月13日以降の学校に関わる動きをお伝えします。

学級閉鎖は12校43学級ですので、ほぼほぼ16校のうち12校ですから、閉鎖の状況で蔓延しているということを理解していただけるかなというふうに思っています。理由は、現在はインフルエンザ感染による感染症拡大防止のための学級閉鎖が主です。学校では、例えば帷子小学校が8学級閉じましたし、広見小学校も8学級閉じておりますし、小学校と兄弟関係があるのか、広陵中学校は6学級閉じています。今日現在、広見小学校の2年生の1クラスと広陵中学校の1クラスが学級閉鎖ですが、本日給食後に下校となる学校が広陵中学校で2クラスあるという報告を朝受けておりますので、油断することなく感染症対策を進めていくように学校には指示を出しているところです。

学校行事につきましては、教育委員の皆様から運動会のうれしい外部評価をいただき

ましたけれども、全て16校終わることができました。次年度開催に向けて、これから検証を各学校で始めていくところです。今日雨がちょっと降っておりますけれども、修学旅行に行っている学校が2校あります。今渡南小学校と広見小学校です。残すところ、あと小学校4校、来週の21日、22日、火曜日・水曜日に帷子小学校、春里小学校、旭小学校が京都・奈良方面を計画しています。そして、最後は12月上旬、7日、8日に東明小学校が修学旅行を計画しております。

毎月お話しさせていただいております希死念慮につきましては、10月の主な希死念慮の要因につきましては、詳しくは後ほど生徒指導の真野主事から説明させていただきますけれども、将来についての不安であったり、死にたいわけではないけど死について考えてしまうということであったり、自分の全部が嫌ということを行っている子であったりそれぞれです。学校ができることは、これまでも大事にしてきたSOSの出し方に関する教育、今年度からスタートした「笑顔の“もと”」プログラム、これは認知のゆがみのプログラムの学びを市全体として行っていくこと、学校生活の大半を占める学習面の不安を取り除くなど、工夫をしていきたいなというふうに思っております。

最後です。実は、本日 a 1 a で岐阜県の中学校の校長先生方が一堂に会する総会が開催されています。可児市が会場になっておるわけなんですけれども、実は昨晚、教育研究所のスマイリングルームの室長さんからLINEが私に届きまして、ちょうど会場として使う大きな劇場の階段の上り口のところに、縦3メートル、横5メートルの大きな作品を掲示しましたという情報が入りました。これは、教育研究所は a 1 a とも連携をしているわけなんですけれども、11月2日、上旬にワークショップでスマイリングルームに来ている社会自立をしようとして頑張っている子供たちが、スマイリングルームで創った作品「カラフルな影絵」という作品を創りました。それを a 1 a に掲示していただけたというところで、今日と明日まで掲示できていると。今、LINEには写真がありますので、後ほど休み時間には見てもらおうかなと持ってきましたけれども、どんな作品かといいますと、作品の中に人形（ひとがた）があるんですが、子供たちの体を形どって、その絵に色を塗ってという、本当にパワーを感じる作品なんです。

- **教育長（堀部好彦君）** 今、回してもいい。後でじっくり見てください。ざっと、こういうふうに。
- **学校教育課長（佐野政紀君）** この作品に写っている子供たちはスマイリングルームに通っているお子さんなんですけど、笑顔でピースをして万歳をしている。教育長さんは、「笑顔の“もと”」は何なんやろうねというようなことをいつも考えられるといいねという指導をいただくんですけれども、本当にいい顔をしているんですね。そのバックに大きな壁画があるわけなんですけれども、今日は県内の中学校の校長先生方がその絵に多分出会われると思いますし、何らかの紹介があるというふうに思っているんですけれども、可児市が取り組んでいることを今日たくさん褒めていただいたので、大変うれしいなと思っておりますし、また今日そういう困り感がある校長先生方がたくさん見えますので、紹介できるきっかけに、今日 a 1 a の劇場を借りながら、スマイリングルームと連携した取組を一部紹介できることが大変うれしいので、報告をさせていただきました。以上です。
- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ 教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君） お願いします。

では、クリップ留め、ホチキス留めの別冊を御覧ください。

今回は1点のみお話をさせていただきます。

まず、本体資料のほうです。2ページ下段から御覧ください。

先ほどから話題にさせていただいておりますが、11月2日でした。笑顔の学校公表会、御参加いただきまして本当にありがとうございました。また、当日御参加いただけなかった委員さんには、御家庭で動画視聴していただくということで本当にありがとうございます。

冒頭ですが、教育長が公表会の値打ちを3点話されました。その1つ目と2つ目、同じ日、同じ時間に可児市中全ての先生方が学校経営について学び合う、また公表校も含めて全ての学校で他校を見て学ぶことができる。この値打ちをさらに細かく言えば、他校の学校経営を学んだ後で、自分の学校の全職員で自校、自分の学校の学校経営を振り返って、残り半年、5か月なんですけど、その方向性を全職員で確認し合える。それは校長先生からのトップダウンだけじゃなくて、こういう学校をつくりたいとか、こういう「笑顔の“もと”」をつくりたいというトップダウンだけじゃなくて、校長先生の意を受けて、また前期の間の子供の姿とか、保護者、地域の願いを受けて、その具体を全職員で議論して、後期の共通行動につなげていくという値打ちがあると私は思っております。

その一例を今日は紹介させていただきます。

本体資料3ページのほうを御覧ください。

2つ写真を載せました。この写真は、今渡北小学校の研究会の様子です。動画を見た後の研究会の様子ですが、今渡北小学校では先生方が4つのグループに分かれて、まず公表校の実践動画を見て学ばれました。そして、そのグループを今度はパソコンのTeamsでつなぎながら、4つのグループ、1つになって研究会をしてみえました。その研究会では、自作のプリントやプレゼンのデータまでつくって、少しでも深まりのある研究会にしようとして今渡北小学校さんでは工夫をしてみえました。それがホチキス留めの別刷りになっております。

まず、ページ数で言えば、5ページから7ページで1つホチキス留めをしたものを御覧ください。

これは今渡北小学校の自作されたプリントなんですけど、今渡北小学校の「笑顔の“もと”」は、5ページ真ん中にもありますように、「自律」「尊重」「協働」というふうです。この5ページの図は、この3つの「笑顔の“もと”」を全職員で考えるためにつくったものです。中ほどを見ると、「自律」を育む取組、「尊重」を育む取組、「協働」を育む取組と空欄になっておると思うんですが、ここをみんなで話し合うためにつくられたプリントが6ページから7ページというふうになっております。こういうふうには、「笑顔の“もと”」を構造的に示したり、より具体的な姿をイメージしながら今後取り組むべきことを検討している。これは本当に価値あることやなというふうに思いました。

もう一つ、先ほど教育長が話していただきました。可児市として対面で学んでいくよさをどうしていくかというあたりで、学校所員を追求していくという、そこを話されま

した。

もう一冊というか、ホチキス留め、8ページから11ページのものを御覧ください。

こちらは、今渡北小学校の学校所員である尾関先生が今年学校所員をやっていたいておるんですけれども、尾関先生が国語の授業を通して「笑顔の“もと”」を育もうとされた自分自身の実践を全職員に伝えようとして発表されたプレゼンデータが8ページから10ページで、11ページにあるのはそのときの口述原稿になります。無理を言っていたものですので、ちょっと取扱いは御注意いただきたいんですけれども、本当に尾関先生の頑張りを皆さんに知ってほしかったので、ちょっと印刷をさせていただいたものとなります。

「笑顔の“もと”」を育むというと、委員会活動とか縦割り活動など、特別活動的な部分をイメージしがちなんですけれども、子供たちの学校生活の多くの部分は授業です。ですので、授業においても「笑顔の“もと”」を育もうとされた本当に貴重な実践だと思えますし、今年学校所員ではそこをちょっと一つの柱にして研究を進めています。

このように年に一度ではありますが、市内の全ての小・中学校で、特色ある教育活動について公表校から学んで、その後自校を振り返るというこのスタイルは大変意味のあるものだというふうに捉えております。今後もさらにより公表会となるように工夫を重ねながら、また先ほど言われた値打ちを先生方に伝えながら、動画による公表会を継続していきたいなあということを考えております。

なお、感想用紙ですが、既に御提出いただいている方ありがとうございます。24日金曜日までに頂けると大変ありがたく存じますので、よろしく申し上げます。

私からは以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
- **学校給食センター所長（水野伸治君）** おはようございます。

今週の月曜日の学校給食では、土田小学校の児童のスープにくぎが入っていたことで、児童、保護者、学校、教育委員の皆様には大変な御迷惑と御心配をおかけいたしまして誠に申し訳ございませんでした。現在までに、ほかでの混入の報告ですとか、健康被害の報告はございませんが、原因についてはちょっと分かっておらない状況です。混入しておりましたくぎは、長さが25ミリほど、直径が1ミリないような細いくぎでした。給食センターの中を調査いたしました。同様のものの使用は見当たらず、可茂保健所による立入調査におきましても御確認をいただいた次第でございます。食材の納品業者のほうにも確認をさせていただきましたが、食材と一緒にするというのはちょっと考えにくいという状況でございました。しかし、異物の混入は避けなければならないですので、今後全ての工程において確認の徹底を実施してまいりたいと思います。

続きまして、蜂蜜を御寄附いただいた件につきまして御報告をさせていただきます。先日、可児市内で養蜂業を営んでいらっしゃる若葉亮さんという方から、学校給食に使用してくださいと蜂蜜20キロを寄附していただきました。若葉さんが生産する蜂蜜につきましては、可児市地産地消実行委員会によりまして「可児そだち」にも認定されております。安心・安全な食材で地産地消の推進、また食育としても適した食材であることから、本日の給食で小・中学校の皆さんに提供させていただくこととしております。本日は、がんばれかにつこ！献立の日でありまして、鶏肉とサツマイモの蜂蜜絡めという

メニューで可児市の蜂蜜を味わっていただこうと思っております。

また、今回いただいた蜂蜜は、春里地区にある養蜂場所で採取したこともありまして、先月10月24日に春里小学校の6年生57名が、総合学習の一環といたしまして、採蜜の工程の体験をさせていただくことができました。蜜蜂についても学習いたしまして、最後に自分たちで取った甘い蜂蜜を試食もさせていただいております。

本日の給食の実施に当たりまして、若葉さんの養蜂の様子ですとか、児童・生徒へのメッセージ、それから先ほどの春里小学校6年生の採蜜の様子につきまして、それをまとめた動画とポスターを作成いたしましたので、全小・中学校にお配りをさせていただきます。ぜひ視聴してくださいとお願いをさせていただいた次第です。加えて、学校で給食時間に放送してもらっている給食センターからのお便りの中でも、頂いた蜂蜜について紹介をさせていただきました。

ここで少しお時間をいただきまして、3分ほどになりますけど、作成いたしました蜂蜜の動画を御覧いただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

- **教育長（堀部好彦君）** ポスターもやったの。作ったの。
- **学校給食センター所長（水野伸治君）** そうです。A3ぐらいのやつを。

〔動画視聴〕

ありがとうございました。

先日15日に給食センターのほうに若葉さんから頂きましたので、それを調理場のほうにお持ちをいたしまして、本日の給食で提供させていただきました。また、子供たちの反応等も御報告させていただければと思ひます。

以上です。ありがとうございます。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
それでは、大変内容の濃い御報告をいただきましてありがとうございます。
皆さん、どうですか。感想等をぜひお聞かせください。

- **教育委員（長井知子君）** 動画ありがとうございます。

いつも思うんですけれども、前も食育のやつで動画を作って、学校に配って子供たちに見せたとか、今回もそうですけど、やっぱりこういう話って、仕事ってやらない選択肢をすればやらなくても済んでいくというところもある中、こうやって一手間かけて、情報というものはなかなか伝わりにくいので、こうして子供たちに伝えるということはすごくいいことだし、すばらしいなと思ひました。

子供たちだとか、今の時代は残してもいいんですけど、やっぱり作った人の苦労だとか大変さだとかが分かると、やっぱりそこに感謝の気持ちが湧いて、ああこれは残しちゃいけないなとか、やっぱりそういう気持ちが出るので、子供たちも残すのが当たり前ではなくて、そういったところから入っていくことで、感謝の気持ちだとか、食べ切ることができると思うので、すばらしいと思ひました。ありがとうございます。

- **教育長（堀部好彦君）** ほかはよろしいですか。

〔挙手する者なし〕

長井さんが言われたこと、私も本当にそのとおりでなあとと思ひます。学校給食はこういった食育の営みもきちとなされていて、感謝の気持ちを持って給食を頂くという気持ちになるんじゃないかなあなんていうふうに思ひます。

それから、もう一つだけごめんなさい。先ほどのスマイリングの子供たちの a l a の作品、またじっくり写真を佐野課長から見てやってください。よろしくお願ひします。

そこで私、先ほど課長も触れてくださいましたが、どんな気持ちが育っているんだろう、どんな「笑顔の“もと”」が育っているんだろうというふうに思っています。幾つかあるような気がします。例えば、子供たちの承認欲求があれで満たされるんじゃないですかね。自分の作品があんな場に掲示をされて、そしていいねなんていうふうに声をかけてもらえたら。それから、表現することの楽しさに気づいてくれないかなあなんていうことも思います。自分の思いや自分の考えていることをああやって表現する。自分の影、体があそこに表現されている。そこに何かきっと表現したいものがあつたんじゃないかなあなんていうことを思って、表現することの喜び、これは「笑顔の“もと”」じゃないかなあなんていうことも思います。

もう一つは、あの作品を見ると、仲間の影がいっぱい一緒になっているんですね。もしかしたら仲間で悩んで学校に来られない子が、あの作品づくりを通して仲間を意識するとしたら、仲間っていいよなあなんて気持ちになれたとしたら、すごいこれも未来の笑顔につながる「笑顔の“もと”」じゃないかなあなんていうことも思って、私は土曜日にあそこで会があつて出向きますので、ぜひじっくり見たいなあということも思っています。ありがとうございました。

委員からの提案協議事項

- **教育長（堀部好彦君）** では、次に教育委員からの提案協議事項についてを議題といたします。

特にありますでしょうか。

- **教育委員（長井知子君）** 子供が学校帰りだとかバイトの帰りだとかに最近言うようになったのは、可児駅の前の治安がちょっと悪いねということをしていました。先日、広見小学校の運動会に行ったときに、青少年育成会の方だとか、前教育委員さんだとかとお話ししていたときに、警察は出ているけれども、すごいことになっているんだよ、一回見ておいでと言われたので、子供を迎えがてら、ちょっと駅を見てきたら、可児駅って J R と名鉄があつて、そこに渡りの歩道みたいなものがあるんですけど、そこに子供たちが、その日雨が降っていたので五、六人だったんですけど、子供がいました。育成会の方に聞くと、可児市だけではないんだけど、下は小学生からいるんだよということを知り、多分その管轄だとか、担当する課は別にあると思うんですけども、教育委員会として校長先生からの例えば相談があつたりだとか、それに対して何か考えていることとか、思っていることとかあるんでしょうか。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

この件について、事務局長、現在の動きというか、体制について簡単にお話をさせていただくとありがたいです。

- **事務局長（飯田晋司君）** 前回のときも若干お話をさせていただいたんですけども、昼間もそういった形で子供たちがたむろするということとあれなんですけど、集まっている状況もありましたし、いつか夜遅く、施設が焼け焦げたりとかしたような状況もあつたりして、あまりよくないというか、かなり不穏な状況もここ 1 年数か月ぐ

らいあったりしています。

a l a の中の利用施設に入ってきて寝そべったりとか、子供たちが。そういうような状況もありまして、a l a の担当課のほうからも、特別物が壊されたりしたのが、誰がやったというのが分からないことも当然あるんですけども、直ちに出ていけというような指導もなかなかできないですし、それをしたからといって、じゃあその子たち、その後どうなるのかという、もともとそういう話もありますので、なかなかみんな苦慮している。

先回ちょっと申し上げた青少年育成市民会議の関連する団体の少年センター、補導とかいろんな声かけをして非行行為とかに対しての対応しているところが中心になって、今後市としては声かけをしていくんだよということややっていくこととか、それから警察のほうに複数、ほぼ常時なのか、ちょっと全部の情報が入ってきていないんですけども、警察のほうに実際に今現地にかなりの時間、署員を派遣していただいて、エスカレートしないような形での対応をしていただいているということなんですけれども、犯罪行為が直接的に行われているということがない関係もあって、なかなか排除するとかということもないですし、教育委員会としては、そこからその子たちがいなくなって退去したとしても、じゃあ居場所の問題がどうなのかということ、今後そこを考えていかなければいけないなど。明確な答えというか、解決策というのが、今の時点でこれです、これをやっていけば何とかかなりますというのがなかなか難しいなというふうに感じているところなんですけれども、市の関係部署と連携して、教育委員会としても学校にも連絡入れるようなことも、状況によってはやらないといけないということで、真野主事をはじめとして注視はしているというのが今の現状かなあというふうに考えております。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

可児署とも連携をして市の関係部局で注視をし、教育委員会としてすべきことをこれからやっていくということになるかと思いますが、具体的に今教育委員会として動き出しているところまではいっていないということのようです。非常に難しいところがあります。私も実際見に行っただんですけど、何か悪いことをやっておるということではない。たむろしているだけなんです。非常に難しいなあという。ただ、あまりよい雰囲気ではないなあということは確かにあると思っています。ありがとうございます。

ほか、ありますでしょうか。

○ **教育委員（梶田知靖君）** 今月23日に、ヨシヅヤの無印良品の中に図書館がオープンするということを市長さんがおっしゃられていたんですけど、前に一回その話題になったとき、子供たちだけで利用ができ……、結局子供たちだけでスーパーに入っちゃ駄目だったりとか、ゲームセンターにとか、そういうのがあったりするんですけど、そこは利用は普通にできる、子供たちだけで利用ができるような形態になるんでしょうかというところです。

○ **教育長（堀部好彦君）** これ、どういうふうだったっけ。

○ **事務局長（飯田晋司君）** あのときに、一通り各学校でどのような指導をしているかというのを。

○ **教育委員（梶田知靖君）** たしか夏休み前ぐらいに、そういう議題を少し問うと投

げかけたような気はしますけど。

- **事務局長（飯田晋司君）** 正直、明確に可児市内で統一してこうしますという教育委員会として何か打ち出せるものができたかという、そういう状況にはなっていないです。それぞれの学校で、校区外には基本的に子供たちだけで行かないというようなことを打ち出しているところのほうが多いのかなということで、じゃあそれで教育委員会として、あそこができたから、あそこだけは例外だよという形で統一的な修正をかけるかということまではできていないということが現状なんですけれども。
- **教育委員（小栗照代君）** 例えば、校区外は子供だけ行っちゃいけないということなんですけれども、図書館とかですと、校区外ですけど、送って行って、子供をそこに置いて、ある程度たってから親が迎えに行くということはオーケーだと思うんですけども、そういったこともスーパーですから駄目という認識なんですか。
- **事務局長（飯田晋司君）** どういう書きぶりになっていたか、送り迎えまで親がやるのであれば、それは駄目ということはないと思うんですけど。
- **教育委員（小栗照代君）** 今までは、うちの子が小学校・中学校のときは駄目で、先生方が回っていても、見つかったら「親は」と言われて、親がそこにいなかったら駄目というような指導の認識だったんですけれども。
- **教育長（堀部好彦君）** うーん、難しいね。
可茂地区で出されているものにはどういう表記だったんやっただけ。特になかった。
- **学校教育課長（佐野政紀君）** はい。教育長がおっしゃられた可茂地区ですよ、10市町村。可児市も含めて10市町村あるんですけれども、その可茂地区の生徒指導が集まる大きな会があって、その中で校区内・校区外で小学生・中学生がどういうふうに住んでいくことが望ましいのかというガイドラインみたいなものがあります。それを受けて、可児市の小・中学校がそれぞれで東明小学校の約束、広見小学校の約束というふうにつくっているんですね。
今回ヨシヅヤに図書館がオープンするということがあるので、これをきっかけに校内の約束をどういうふうに表示するのかということを考える期間が必要だなというふうに思っていますので、前回御意見いただいて、市内の小・中学校がどういう校内の約束を子供たちに提供しているのかということについての集約はできています。なので、これから次年度に向けて、ここをどうしていくことがよいのかということなんです。
- 例えば、先ほどから出ているm a n oもそうなんですけど、m a n oはどこの校区の建物で、その校区には、じゃあ校区外の子は行ってはいけないのかどうなのかというような、そこはあれができたときには話題にはならなかったんですけれども、そういうことも含めて、これからどうしていくのかということ協議していく期間に入っていきかなというふうに思っていますので、また方向性を時間いただいております。
- **教育長（堀部好彦君）** あのルールは、いろんな反社会的な行動も含めていろんな問題、学校外でのいろんな問題があった頃に、いろいろまた規則ができたというようなこともあるんじゃないかなということも思っているんですけど、今の子供たちの実態に応じた約束というのものもあるかなということも思いますね。大分外で悪さしておったというのが、かつてはありましたよね。

様々な御意見を出していただきまして、御提案ありがとうございました。対応すべきは対応して、また報告させていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

その他

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、次にその他に行きます。

次回の日程等です。

- **教育総務課長（水野 修君）** それでは、先月、次回の会議の日程を御提案いたしました。12月15日金曜日午前9時からということをお願いをいたします。場所はここと同じです。4階第1会議室でございますので、よろしくお願ひいたします。

その次、1月の日程でございますが、1月19日金曜日午前9時ということをお願いをしたいですが、よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

では、よろしくお願ひをいたします。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、よろしくお願ひしたいと思います。

水野課長、どうしましょう。このまま続けますか。

続けて行ってよろしいですか。休憩なしで。

〔「はい」の声あり〕

すみません。では、引き続き会議を続けたいと思います。

(以下非公開)

(以上非公開)

閉会の宣告

- **教育長（堀部好彦君）** それでは全て終わりましたので、これにて教育委員会会議を閉会します。お疲れさまでした。ありがとうございました。

閉会 午前11時09分